

ひらいた門

見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。なぜなら、あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。 黙示録 3 : 8

VOL.02-09 NO.018 2010年09月

チャーチ・オブ・ゴッド

川崎南部キリスト教会

〒210-0025 川崎区下並木66

TEL&FAX 044-233-3648

Eメール：nanbu-kyokai@nifty.com

URL：<http://kawasaki-nanbu-kyokai.com>

「礼拝から伝道へ」

橋本幸夫

牧師夫妻だけで礼拝を守ることもしなくなかった地方のある教会で、その頼りの夫人も風邪で休むことになってしまいました。〈いや、誰か来るだろう〉と牧師館を出た牧師がやがて戻ってきました。

〈あなたどうでしたか。何人出席ありましたか？〉〈5人も〉〈エッ？五人も、誰々が出席したんですか〉と、顔を輝かせる夫人に牧師はおもむろに言いました。

〈父、子、聖霊、悪魔に俺じゃ〉。

おもしろい小話！と言って笑えませんね。こういう状況をくぐり抜けて奮闘し、礼拝を守っている牧師、信徒によって教会は支えられているのです。

「きょうは、苦難と、懲らしめと、侮辱の日です。子どもが生まれようとするのに、それを産み出す力がないのです」

(イザヤ37:3)。

このヒゼキヤ王の嘆き、訴えこそ教会の切実なうめきでもあります。

しかし、この人間の側の無力さにあってこそ〈神には出来る〉と言う確信と希望をもって捧げられるのが礼拝です。

そして、こうした霊と真実に満ちた礼拝

から伝道へと送り出される力も与えられるのでしょ

う。使徒の働き13章にはアンテオケ教会の様子が記されていますが、こうあります。「彼らが主を礼拝し、断食をしていると、聖霊が、『バルナバとサウロをわたしのために聖別して、わたしが召した任務につかせなさい』」(2節)。

つまり礼拝を捧げている中で、伝道という次元へと遣わされて行くことになったと告げているのです。伝道は突然になされるものではありません。礼拝から伝道へと導かれていく道筋というものがあります。

ここでバルナバとサウロ(パウロ)が世界宣教の任務を聖霊から受けた時は、彼らが主を礼拝し断食している時であったことに注意しましょう。

礼拝と宣教(伝道)は密接な関係にあるのです。主に礼拝を捧げているその時に宣教(伝道)の任務は常に主を礼拝する教会にゆだねられているのです。

〈ここでの礼拝は終わった。神に仕えるために出て行って福音を宣べ伝えよ〉との言葉ののち祝祷を受け、当教会では礼拝から伝道へと向かいたいものです。